

第4回与謝野町産業振興会議 会議報告書

日 時 令和3年12月23日（木）午後7時00分～午後8時30分

会 場 岩滝保健センター

出 席（敬称略）

鳥垣 壯司	佐々木 由美子	岩西 拓男	小林 厚美
浪江 敏一	山崎 信之	大江 卓	長島 由昇
三井 真里	塩野 浩士	濱田 祐太	杉岡 秀紀
木原 綱雄	辻 拓哉	大月 颯真	

欠 席（敬称略）

今井 信一	羽賀 信彦	斎藤 善規
細見 悠人		

事務局

商工振興課 小室課長	同 三田主幹	同 大上主幹	同 井上主任
同 糸井主事	農林課 矢野主幹	観光交流課 市田主幹	

傍聴者 0名

<会議要旨>

1. 開会

2. 挨拶（佐々木委員）

某出版社に掲載してあった記事を紹介したい。それは、シンクロナイズドスイミングの井村雅代氏の言葉で「叱って育てる」という言葉である。本人は叱っているつもりはなく、ダメならダメ、下手なら下手ということを正直に言うことが大切であり、注意をした後には必ず良くなる方向にもっていくようにフォローすることが重要である。その中で3つ叱るコツが掲載されていたので紹介したい。1つ目は「必ず現行犯で叱る」、2つ目は「過去のこを持ち出して叱らない」、3つ目は「しつこく何回も叱らない」。私自身も子育て世代なので、井村氏の言葉が心に残りました。

産業振興会議において、中小企業振興基本条例の見直しを議論していくにあたり、サブタイトルとして、〇〇条例などの分かりやすいタイトルを付けるのも良いのではないかと思った。高校生の

息子が与謝野町民のことを「与謝野民」と言っているが、例えば「与謝野民条例」など町民が興味を持ってくれるようなサブタイトルもあっても面白いと思った。

次回の冒頭挨拶は大江委員にお願いしたいと思う。

3. 議事

(1) 前回の振り返り（パワポ資料参照）

(2) 中小企業振興基本条例の改正に向けて（グループディスカッション）

◆「前文」の見直し作業を各グループごとで議論する。

9年前からの変化やボリューム感なども含めて残していく部分と変えていく部分を意見出しを行う。

A班（発表者：濱田委員）

現条例の前文は長くて分かりづらい点がある。シンプルに分かりやすい前文にした方が良いのではないか。

また、前文の構成を変えていった方が良いのではないかという点も話し合った。条例の目的といった結論から明文化し、何故それをやらなければならないのかの理由や背景を説明し、だからこそこの条例を作るんだということを最後に説明し、最初と最後に結論を示すことで、前文を読むだけで条例の意図が分かるように分かりやすい前文にする必要があるのではないか。

この条例の重要なポイントとして、「中小企業の振興が地域経済と地域社会の欠かせない存在である」という部分であり、ここを軸に何を説明していくのか、何故中小企業を発展させていくのかを考えたときに地域経済を支えていくこと、まちづくりの担い手として中小企業があることが挙げられる。中小企業はまちに対してどういったことを与えていくべきか。。例えば、町民の幸せを作り出していくや雇用を生み出すや困りごとを解決していくなど、経営者や従業員が町にコミットしていくことと、反対に町民が中小企業に対して何をしていくのかということ、消費者として応援するや商品を購入するなどが挙げられる。この2つが成り立って地域経済・地域社会づくりなのではないかと話し合った。このような構成で具体的に肉付けして分かりやすく、シンプルに言いたいことだけをまとめていった良いのではないか。

もう1つの議論としては、中小企業者が当事者意識を持つことが重要である。当事者意識を持つことが出来る条例の名称や文言を盛り込んでいければより良いのではないか。

B班（発表者：佐々木委員）

B班についても、前文が長いという話がでた。

主語を「わたしたちは」という形で表した方が、自分たちのまちという想いが生まれるのではないか。また、高校生たちの話では、与謝野町として安心して働き続ける場所があったり、進学や就職ができる環境があったら良いという意見も出た。教育の面では、小中校生を育てるまちといった言葉も具体的に盛り込んでいければ良いのではないかという意見もでた。

まちのイメージとかを意見出しした中で、現前文はちりめんのことなど細かく書き出している部分

が多く、読んでいても頭に入りにくいことがある。

関係人口や交流人口など現在に合った言葉も盛り込んでいければ良いのではないかな。

C班（発表者：木原委員）

全体的にもう少し分かりやすくコンパクトにまとめることが必要ではないかという意見がでた。

ちりめんの部分に対しても細かく書き出されているため、幅広い年齢層に分かりやすい内容にした方が良いのではないかな。

条例制定された約9年前からの変化を前文に盛り込んでいき、インパクトのある内容にするのも良いのではないかな。

また、若い世代が帰ってきたい、帰ってこれるような地域づくりにしていくことが大切ではないかな。

D班（発表者：塩野会長）

外せないキーワードを意見出しした中で、主語を統一するべきではないかという意見が出た中で、「わたしたち」という主語を統一しようという意見がでた。

また、SDGsの観点は入れていきたい。特に近江商人の三方よしである「売り手によし」「買い手によし」「世間によし」に加えて、「未来によし」という四方よしというキーワードは盛り込んでいても良いのではないかなという意見がでた。

杉岡先生講評

皆さんの意見を聞く中で、同じ方向を向いて議論が出来ているのは素晴らしいことである。

また、高校生が委員として参画していることで自分が帰ってくるや働く場所といった観点は大人だけでは出てこない部分ではないかなと感じ、議論の幅が広がっている。

議論の中で共通して出ている主語の「わたしたち」というキーワードは他自治体でも使っている。町民の方が参加した条例はこのようなキーワードが盛り込まれている。行政が作った条例は「本町は」といった行政主導で作ったことが前文をみただけで分かる。「わたしたち」というキーワードは重要であると同時に、関係人口や交流人口の方も「わたしたち」と感じられるかが課題でもあるので、盛り込むか否かは議論が必要である。

次回の球出しとして、条例の構成の中に「議会の責務」という視点も必要だと感じた。まちづくりのための条例であるため、行政だけではなく、町民である議会も条例を理解する必要がある。

参考自治体の紹介として、滋賀県米原市の条例は独特の表現をしている。（条例拝読）

次回の会議に向けて

他自治体の条例を1つ調査していただき、次回の会議に持ち寄って議論していただきたい。

(3) その他

次回以降日程について

<第5回>：調製中（1月もしくは2月予定）

次回会議内容（案）

◆中小企業振興基本条例の改正に向けて（グループディスカッション）

4. 終わりの挨拶（長島副会長）

今年最後の産業振興会議をお世話になりありがとうございました。

1歩1歩進んでおり、幅広い年齢層の方から活発な意見が飛び交っていることは非常に良いことだと感じている。

次回の会議までに1自治体の条例を調査してくるという課題があるので、よろしく願いいたします。

5. 閉会